

アグロマネー・ニュース（19年9月19日）

愛知・豊橋市から渥美半島をぐるっと回って静岡・磐田市に到着。いま駅前のホテルにチェックインしたところです。もうすぐ出かけます。O君家族と食事です。

8月24日、京都へドローンによる農薬散布のデモフライトに NSi 真岡の水沼和幸社長と出かけてくるとお知らせしました。そのとき、散布対象の圃場について伏せさせてもらいました。

実は、昨日正式に公表された大嘗祭祭田に指定された南丹市八木町氷所の圃場でした。デモフライトに協力していただいたJAグループ京都から、「せっかくだから、大嘗祭の斎田（さいでん）を選ばせてもらいました。警備の都合上、京都府警察本部から、大嘗祭の斎田だということの公表は正式発表があるまで控えていただきたい」と申し出がありました。

デモフライトに際しては、ドローンを操縦する水沼社長の運転免許証のコピー、使用するドローンの機体番号など書類の提出が求められました。



齋田の持ち主は、中川久夫さん。JAグループ京都の会長は、中川泰宏さん。ご親戚なのかな。齋田を決めたのは、ひょっとして同じ集落に住む中川会長の政治力の賜と思われるでしょうが、5月13日付け産経新聞は、こんなことを書いていました。

「皇位継承に伴う11月の重要祭祀（さいし）、大嘗祭（だいじょうさい）の中心儀式「大嘗宮（だいじょうきゅう）の儀」で、神々に供える米を育てる地方を決める『齋田点定（さいでんてんてい）の儀』が13日午前、皇居・宮中三殿の神殿前で行われた。カメの甲羅を使った古来の占い『亀卜（きぼく）』の結果、東日本の『悠紀（ゆき）地方』に栃木県、西日本の『主基（すき）地方』に京都府が、それぞれ選ばれた。結果について、天皇陛下は皇居・宮殿の表御座所で、宮内庁の山本信一郎長官から報告を受けられた」

「亀卜」、かめ甲羅を使っただけの占いとか。それにしても中川会長の集落に決定とは、1億円宝くじに当たるぐらいの確率だと思います。どこで祭祀を執り行うか。これは権力者にとって最大の関心事。民主的決定など無縁の世界であった法がとても分かりやすいと思います。

#### ◇◇本日のニュース◇◇◇◇

選ばれた『齋田』は警察官が警備する厳戒態勢…京都・南丹市の米が大嘗祭に献上決定（毎日放送）

毎日放送が、今年11月に行われる天皇陛下の即位に伴う「大嘗祭」、その儀式に供える米を収穫する「齋田（さいでん）」が決まりましたとレポート。その1つが京都府の南丹市の田んぼで、9月18日時点で、現地は厳戒態勢が敷かれています。

豊かな田んぼが広がる京都府南丹市八木町氷所。9月18日現在、周辺では警察官が厳戒態勢を敷いています。これほどまで警戒するには訳がありました。

「11月の大嘗祭で備えられる米はあちらの田んぼで作られることが発表されました。」（記者レポート）

今年11月、天皇陛下の即位に伴って行われる「大嘗祭」。その年に収穫された米などを神に捧げて感謝し、国の安寧と五穀豊穰を願う儀式です。この儀式で供える米の産地を決めるために、今年5月に皇居・宮中三殿で行われたのが「齋田点定の儀」でした。カメの甲羅を焼いて占う「亀卜（きぼく）」の結果、京都府と栃木県の米に決定。その後、宮内庁と京都府が協議した結果、選ばれたのが18歳から農業をしているという中川久夫さん（75）の田んぼでした。

「そら選ばれたら嬉しいというだけではない。心配。稲刈りをやって献上米を作る。まだまだ時間はかかるが、何とか最後までやり遂げるということを覚悟しないと。」（中川久夫さん）

中川さんは3年連続で最高ランク「特A」の評価を受ける「キヌヒカリ」を育てています。米の特徴を聞かれると…

「まあ美味しいな。柔らかくて美味しいな。早いこと1日1日が過ぎるのが待ち遠しいわ、毎日。」（中川久夫さん）

黄金色に輝きはじめてた稲。大嘗祭に向けた収穫はまもなくです。